

0630

建議書

第一課
第二課

可奉を去り實に就ヶ止ついで

海軍大臣殿部彪閣下

大分縣別府町

油屋熊八

送付

建議書

一町氏

油屋熊八

御聖旨

「華を去り實に就けしつゝ

建議書の要目

- 一、我國民の糧食を豊富にせんと爲す清酒の造石を半減し國稅を倭額に増加する事
- 二、二重生活の悪弊を改めしむる事
- 三、我國所引所を七八ヶ所に制限する事
- 四、勸業債券割増附（富くじ）を改正する事
- 五、奢侈品に重稅を課する事
- 六、大に國産（殊に蠶業）を奨

勵する事

七、銀行業者は他の事業に關係

せしめざる事

八、大會社の暴利を取締る事

九、政府及民間經營の鉄道電車

流転等の運賃を調査し高く

む之を引下くる事

十、煙草賣下がり代價を候額に値

上げする事

十一、六の大地震を紀念に大に勤

儉貯蓄を奨励する事

以上

~~0630~~

0635

(拾二行)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

漢系

今回東京横濱及関東方面に於て千古
 未嘗有の大震災に次ぐ大火災起り之
 れが爲に死者約十二万負傷者三十万
 焼失家屋三十余万損害高五十億圓也
 と註せらる、

實に人生の悲惨その上におい大事変
 が突如として加へて我帝國の政体極
 端に歴代の内閣が失政と多年政友會
 我党内閣が我田引水の政策を弄し放
 漫の結果致んば行詰つて爲た際加藤
 前内閣加藤子農去の跡に恰も此大時

尚發生國難の秋に當り閣下を不問も
 山本首相が強譲せし新内閣の重要亦
 り海軍大臣を拜命され而かも劇震中
 に赤坂離宮の芝生の上を畏くも
 我攝政官殿下が親任式を御奉行相成
 つた杯實に世界に於て稀有の大珍事
 であり洵に奇蹟的である
 有る魚とふり無き有るを生む之れ天
 地の原則にある芝生の上に生れた山
 本内閣を是實に天祐であつて畢竟之
 畏くも
 我兩陛下の御聖徳の賜に我等臣民之

日常感謝する事を片時も忘れず相
 成らぬ、
 今度大震災に就て忝くも我々臣民に
 大詔煥発とあつたその御聖勅の御主
 旨を謹んで奉戴し今後我々臣民が各
 自爲すべき其職務に向つて誠心誠意
 献身的従事せむ、禍は轉じて福とあ
 り我帝國も彌か上るも榮へその富強
 を世界列強に示すべき素地を漸次に
 送り得て他日金々實力ある東洋の盟
 主とあり共存共栄の指導権を我帝國
 が当然享有すべし運命であるとはす

勿論閣下に於かれても我國家の爲
 に歎身されとの稱命に相異ないと信
 ずる亦それが先決であくても此範圍
 に當る次第神資格がよい只之を閣下
 一人のみであらざるも山本首相を勿論
 他の閣僚一同も確かに歎身された即
 ち生命賭の圍結いあると私に確信す
 る、無論そのうであらう又事實其大決
 心があくても異くも
 我兩陛下昇に攝政宮殿下に對し奉り
 一丈下國民に面してても奇蹟的劇案中
 に芝生の上で産ぶ聲を揚げた山本新

内閣の真價を果して何處にありや
 あるか普通の場合の後継内閣とて殊
 更に方がう、名譽慾や打算的から劉
 出して決して此新内閣を引受らぬ
 者か亦い畢竟曰乃公出たずんむ此蒼
 生を如何せむ之が山本内閣の根本
 的出发点に相異ない即ち此一大決心
 此一大抱負が生命かありむ是れ畏く
 も
 秋兩陛下別に攝政宮殿下に於せられ
 ても山本内閣を御信認被遊下國民也
 拳つて（吾小部合よせ不平もあらう

一 新内閣を歓迎し大多数の我國民は
 實際に信頼して所謂全國力を閣下也
 新内閣に信頼された者がある、
 洋の東西や人種の黑白も相異しても
 人情を實に世界的共通の者である、
 あれ程我日本人も第一に支那人から
 熱烈な排斥を受け又昔我國が開港時
 代の貧弱の頃より頻りに愛護してい
 た米國人からも近年著しく我同胞か
 きらわれ全米に排日の聲が到る處
 に喧く其他の諸國もどちかど言へ
 るが嫌ひをして餘りに歓迎し不

かつたがそれとて色々感情問題の日
 本を第二の捕逸であるかのやうに誤
 解されたり若くは復雑な事情もあつた
 事であらうが、つまり我日本が各々
 知れぬ極東の一角帝國から起りて是
 迄日清日露及晩近歐州の巨大戦に打
 ち勝つてトントン柏子の戦金振に世
 界列強の仲間入をするやうにあつた
 ・ 彼も四の院でニミ殿幕下の力士か
 ノキヲキと俵に出世して入幕前頭関
 脇と逆取逆打などかするや大関横綱
 を倒すやうな勢にたつたが人様に

欠た処があつて此奴角力え強いか何
 せり出かすかぬとて幕内の連中から
 恨みと排斥を受けたと同じせり心
 理作用から来たものであるかも知れ
 ぬ、
 處が今度の大地震も豫想外も世界
 列國を素よりあれ程に恨み骨髄に徹
 したとむかりの支那人までも熱烈な
 同情を寄せて出れ考世界の國民が起
 ちて義金や物資を寄贈して罹災民の
 救済や帝都の後興に就て出来るだけ
 援助する米國も英國も外債も進んで

庶幾してあげようといふ所謂人情美
 の発露とあつた實にふんふ美しい事
 と國交際の上からいふ世界平和問題に
 就て不圖も油によい勸諭を此大災厄
 が送つて呉れた事に相成つた我國民ま
 世界各國民に對し深甚に感謝すべき
 がある、
 私を知つてゐる範圍に於て甲白院の
 出俵の上でまた太刀山ほど體格の偉大
 ぶ力量の強かつた横綱でもないその男
 己全盤が實に短かくていつの間にか
 角界から排斥されて何處かの待合の

親爺にあつて傍り為利貸とかきやつ
 て随分落してゐて彼の梅ヶ谷如常陸國
 のやうに永く此道に尊重されあつ
 たが、之も要するに一ハ籠りに強過
 がたので仲間かゝ恨みを買ひ一ハ人
 格に欠けた処があつたのが原因心と
 思ふ、
 人かゝも國かゝも同じものと殊に國家も
 尚更強くおれむふる程紳士的に正義
 と平和を尊重指導せねばならぬ、
 人が生命を投げ出した程豪い毛の毛
 かい山本新内閣が我輩の信ずる以上

の大決心が果して事にあるか否か
 度我國家及國民が受けし禍も轉じて
 福とふすかとは必然であつて即ち取
 直さず之が山本内閣の大使命であ
 るにせよ、
 我國上下七千万衆が一致した團結力
 を以て閣員諸公が誠心誠意一生懸命
 努力盡瘁せむ所の所謂大困難たる復
 興事業も勿論行議つてある我内政も
 外交も経済も教育も何れもかたも
 て解決し順潮に運行するものと
 確實に實際に出来得るものである之を

して眞の拳國一致内閣と云ふ。
 閣下正々堂々断々乎として大にやる
 べし正義に敵てはい仮にあつても漸
 次に確に撃勝つたか出来得るもの
 である實に正義も最後の勝利に帰す
 日本流の儒式秘密政治も此際大に政
 ちるの要あるべし
 不肖者今度の山本新内閣を流石に天
 祐内閣と云ふあつて閣員諸公が幸に選録
 されてゐて人格学識経験等孰れも皆
 具備されてゐる或る意義に於て人爲
 てもとててもさう出来まいと思ふか

要するに
 畏くも
 我而陛下の御蔭にある
 小本首相 後藤内相 田中陸相
 田 農相 犬養速相
 ちと實に押しも押されぬ世ぬいづれ
 も立派か然理概か他の閣僚も均に腕
 揃いおんか一粒選の内閣を新第時
 の三條木戸大久保公等以來迄んご貴
 例を見おいが叔父地に梅森基に立せ
 て見おいと貴技倆を確に判らぬか就
 任勿々のやりに口を新見すると豫想の

やうにテキバキと世切れ味を實地に
 見せてゐられし其考國氏七千歳一
 男の大時命也、實に舉國一致の秋で
 あるから黙してやらせるであらうか
 又關東諸公も無論一身同體とあつて
 古の大難局に對し終始せられると
 尤も確付す、
 終始一貫御聖方を奉戴して勇らしと
 おめりかせい必然成功疑ひなしだ真
 に古の一大教訓を天が與へた我日本
 帝國改善の大チャンスに只勇往邁進
 の一途あるのみだ、

就ては不肖態ハも國民の一員として
 六十一才生きて來た實驗如ら常に痛
 感してぬる時弊を臆面なく在に列記
 して謹んで建言す、六の中に用ゐる
 きよいふとがもしあはむ一不肖も皆
 よい事だと自侯じてゐる、どうか御
 不ふさいその採否を閣下等の無論御
 留意であるが、幸に不肖の責が我國
 政の上ハ假令微かでも御為にでもお
 れども今も別府温泉の龜の井旅籠主人
 たる拙者實に光榮身に餘つて本懐至
 極である、

要するに此建言も今四大詔煥燗の示
くも御醒音にある

「華を去り實に就け」とり

難有々大御心を謹んで奉戴し我等臣
民が實腹躬行せぬと相濟まざると言ふ
ふとに外ふりぬりである

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

一、清酒の醸造高(年五百萬石ふかむ
廿百五十萬石)半

減し禁止的(田あかむ
四十八石)に國税を倍額(十一石
廿四)

故に送石を半減しては税額又

減額せぬ

減額せぬ

(拾二行)

麥酒も同様にしてもらいたい

(理由)

酒がすべての贅澤并に勤
儉力を消費し時間を空費
させる者醸成の本家本元
であるから先づイの一番
に之に制限を加へざるべ
からず

人口年々六十万増加しつゝあり故に第一に我國の
糧食を是非とも常に豊富に貯蓄して不時に備へ
置ざるべからず然るに一為又功不我國民唯一の食
料たる米を皆からの悪習慣ふりとして賣へ何んぞ計
らん人の生命の糧を生活に累も不必要であるが
つて人生に有害無益な酒の醸造に消費し尚且我國
民を以て隨從の例に後し込む所不者で時代錯誤の
果山甚だしき大として實に又國家の不経済は止らぬ

し
現に平時の今日でも食料不足の為に年々外國米を
多少つゝ輸入し居るにあらずや

(参考)

最近にその害毒の為に倒れし天下知名の士

田原稻次郎博士 (酒に酔つて二階から墜落して死亡)

加藤前首相 (若い時より厚人肌を養肥し酒を嗜み
飲り小たのが原因がさうで胃癌より早世)

安に於ける人等の死は國家の大損失である惜むべきか
由來酒呑みに胃癌病者多しと聞く

奥象院前議長 (之れ有名の大酒家であり為に遂
に頭をわろし職務に堪はず名譽ある議長を辞し

郷里に病を養つてある
山座團四郎も其他有為の人士が酒のために倒れし

者實に枚舉に遑あらず
下層社会に至つては亦まが酒を呑むために常に又婦

喧嘩絶へず酒の為に家計を貧しく子女を教育する事
出来ず一生浮世のなき最と憐れ小人遊木の社会

に大ダメージを占む
喧嘩騒擾人殺し常に家庭の不和を論不良少年の

輩出ありとあつて悪いものと多く酒の爲に起
つて確に社会几殺之憂に常に破壊されつゝあり

(拾二社)

昔に我國民が酒を飲まふくふれ近て勤勉とあり
作質も歐米又も支那人のやうによくある

先年上原大將は禁酒をすゝめた際大將曰く
曰我國の壮丁の作質之まに酒の爲に(親の遺付あり)

也の列國の壯丁に比し不長であらむと
禁酒の結果をすべての能率を増進し衛生保使を改

善され國是之が爲に損かしいよく善良の國民と
ふる

我國內省やその他官廳の旧慣で御益御下賜ふと
此等是非とも改むして廢止してもらいたらん不

悪習を一初酒の奨励ともある
畏くも

我親政堂殿下を御の上りにふらふいと辨開す
いかに我國の社會道徳が傳説だとてま一難世他大

酒産の主人又もビール會社の社長が酒産のやう
亦悪い商賣(結果)に從事しおがり善て天下の大紳

士であるかのやうに自分も威張り社會を之を認
するに到つても實にまなく我國民が世界の大陸敷

に列席するの次第に欠くる處かあらうと思ふ
商人だから金儲けするにその道の善悪を變ふ邊か
ふいとあふのふれ之を振別だ

兎角是近の倍更輩は酒を國民が

飲む為にその體質の善悪を延て
 直接間接に酒害の爲に社會や國
 家が大小有有形無形の損失する
 六と赤どに頓着なく只酒送税金
 の減少を憂はて（否むしり増加
 を真比て）斯然此舉に出でず
 りしと俗吏も能造も俗吏根情で
 あつて畢竟大局に就て連觀なく
 只六れ目前の收入を謀るに汲々
 たるに依る之等を續して
 『一文各みの百失おい』
 の類である

よく米國禁酒後の成績又々他の諸國
 が禁酒又々節酒を励行してある事實
 を真面目に調査研究して果して實際
 に國利民福があるか否か取て以て大
 に之を鑑みられたし

二、我國民に二重生活の贅を廢せ
 しめ他の文明列國民の如く生
 活を單一に改めしむる事

(理由)

世界いづれの國民も皆單
 純の生活ぶりにして殊に
 大戦後極端に節約主義

(参考)

を励行せり獨り我日本人
 の如く贅沢いし〜魚鱗亦
 ニ産生活を敢てなすつゝ
 ある亦人亦愛挺亦國民亦

1 及靴(絹布木綿毛織物)等々すべて此際無地色物に
 趣米并に支那等々から輸入し其地の棉ふか巾着を全
 廢しつれし方巾着に機立しの世界中有世共通の
 にしてもらいたいとして服裝と洋服が實際果して
 おくば(和服)多自京駿上一品よいと供す)男女
 とも一切洋服に改変するものと
 女子仲間の一程に日本の美術を棄て去る如く喝
 ち一減あり之れも大衆の時に用ゆる事にはむよ
 年若く習女とも活動の仕易さあり〜経済的衛生
 的洋服に限ると思ふ
 食料も簡易にして滋養分に富むものを選ば料理法

(拾二行)

夫經濟的ハ一ツ可成洋風ありを為ガ
 3 家屋を洋風に改むる亦北に在る日本家屋を通常
 に改造セシメの漸進的便利な洋風に改築セシメ
 處にナリ 鉄筋建築と云ふす木造で結構と思ふ

要も日式の日本生活がよ

くは洋風を棄て、日本式

とふし日本式が現代に足

らざるをえむ洋風に改良す

る處と即ち第一に示す事

山本内閣と云の大國難發生一所謂

千歳一遇の去の上もふいぬ機会

に於て

御聖旨

中華を去り實に執けしを

新國民に充分に周知する也う宣
明され我々國民が用醒て生活の
改善を為すと共に特に此際盡力
を希ふ

三、全國の取引所（實は公然の博
奕場）を記の都市七ヶ所に對
然制限する也と

東京 横濱 名古屋 京都
大阪 神戸 下と聞

之を會員組織に改め會員の
資格を更に厳重に調査して

（是等の様に神買人出敷の場は多くは一夜迷りに他人の
財産を偽りに名義だけを一時借りて誤魔化す也）

（拾二行）

實際資産あり信用あり爲
 人枚具備せる者に限る事
 長期を引買と廢止し短
 期又々互を引と亦し殊に
 所引所株の如き高下の最
 も甚だしき場矣株と断然
 上場せしめざる事
 横濱の生糸市場に定期賣
 買ハクナあるが爲に投機
 師に悪用され不時に相
 場を買煽り又々賣崩して
 之か處に實際の生糸実物

賣買に悪影響ありて輸出
 を阻害する事多し莫の輸
 出開度大に憂慮し成る
 と聞え

(理由)

後下も批者か中上る迄しお之よく市場の實際を御
 衆知てありう所の多くの賣買事案の商所月日お
 くて空賣買で所謂公然の博奕である日金の金
 引に外ありぬのである其証左定期及短期金引日
 金の賣買と日々の株買賣並に月末定期買賣
 高とを比較対照せば現株實際の受渡有るものと
 實に九月の一をに過ぎずして他は皆差金引で
 バックした決済されるものである株米系は自然りだ
 日と市場に出入するの差額を前に濫業的懸張の連中
 と賭博常習犯と同視してよい位の者ある故之を
 論外として株高工務家及び医士弁護士官吏並に女
 妻女学が富川の甘言に釣込まれて株其他の定期短期
 の賣買に手を添めて深入を志し又て銀行界が小使
 取の意味をさきとて試み深海に入つて大穴を明け

(拾二行)

行金を消費するおどろきの連中が東林大株上取株
 などの博奕株の口々の下を暗に口にするに
 引つては全国に射利投機熱がいかにも熾漫してゐる
 事には驚くの外でもない石巻関係者去人素人の差別
 なく百人中九十人あり祖是徳来の家も花は田知も
 老舗もみだり亡くするもの全国到處に多し拙者も
 御里守和島で親類の官業家も花は身代
 浪り業漢も皆に献上せしやと世一人の間違ひの
 生きた私人である
 今の世は射利投機熱が前述のやうに著しく熾漫し
 てぬし田舎の人達が農村の出身の眞面目な定生
 活より放れ動かしすれ多く華美ある濡染の都倉
 と生徒と憧憬して居住する為に延て農村衰微の主因
 とおもふありである

為政者その点杯に物に留意を希ふ

美井前農相と田舎に散在して久人とその存在を認

めぬ程の取引所を幸ふして廢止せざる未だ甚だ

徹底せず

山本内閣の閣下と之が存否の利

實をよく研究されて果して國家
に害ありしせむ断然の引所を
廢止されたりし

特に横濱市場の如きも生糸輸出
貿易の消長に大關係ありが故に
充分に調査されて實際不利あり
は定期を禁を禁止されたりし

四、勸業債券の割増附（富くじ）
發行を何か他によい方法に改
正されたりし

（理由）

我政府の國民には或る富くじを嚴禁しおから政府
と親類縁者のやうな富くじを發行し富くじ

之許しに國民に射利的投機心を常に養成するが如き
 ホコトトシキも甚し是等社会几級の爲に充分研究
 されて何れの外に矛盾せぬよい方法に之を改正され
 たいものあり
 併し金を國民より集むるに手段の莫悪を避く道
 か未いと云義あるは論外である

五、大着移品に重税を課する事

(理由)

我國民は日清日露戦後歐洲大戦とて三度戦いに勝
 ち誇り自然に其の爲に我を世界の富強民である
 かの如く徒らに氣自を驕り殊に歐洲戰は世界の趨
 勢を對岸の火災視し現今の富強は尚世成金輩とて
 大關の批山人を燈時代を模倣し而かも我も天下の大
 茶人あり我家にも其々の名物とて花しめると世に誇
 り三都及各地の數多者と京都茶山に招待して豊大
 洲が當付茶寮に馳りし眞似と爲して大茶會を催す
 あり(實は骨董屋に煽却されて)又徳川氏が天下茶年
 に於いた彼の元禄時代を夢み華美淫蕩に流れて風
 流紳士と氣取れるやあらむを賛をそし之をの爲に

我國民性たる勤儉質朴なる美風を傷けたるを憂
ひ夥し故に彼等が濫用するを以て教習用品に重税を課
して大に彼等を反省せしむるにあり

社會主義者が富豪を恨むも流す所以亦せに非ず

六、まづ我特産たる蚕業を第一に
その他の國産を奨励し重要
なる迄出する補助を與へ實用
的なる高品を國外に輸出せし
め殊に蚕業を益々全國に普及
するやう徹底的に奨励する事

就中九州中國四國を先方に發達すべし是も亦余

有望なる好適地である

(理由)

(拾二行)

我日本製の物品を多量に輸入せしめ、粗製濫造の愚弊あり之等の爲に我々日本人で有り、亦た船舶來品を便し習僻あり之を品物か良くて其價割合に安きものもよる果近我國の機械工業漸次發達して製成品は稍而目を及ぬるあり之等をよく調査研究して輸出の商品と我政府と通商する補助を以て海外貿易を一層熾ぶらしむると同時に

我蚕業を熱心に奨励し生糸の製産高を多し益を豊

富ぶらしめなし幸に我蚕業を世界的有力なる特産

物である

七、我銀行業者が他の商工業業に法

律を以て断然關係せしめざる

事

(理由)

我実業界を未だ他種にして歐米の如く専門的あり銀行家にして他事業に幾多關係しつゝある者

あり(否)資金を得人が爲に銀行業を重んじ自介の
 事業に使用せんとせり) 捨も八百屋の如し
 故に時に賊界不況の際多くは之が因となりて不
 時にその關係せる銀行の取附け騒ぎを惹起して銀
 行の倒産又と支拂停止近時我全國に涉つる頻々と
 各地に現れん之が爲に預金者并に取引先に大迷惑
 をかけ延て我賊界に大ある波紋を生ぜしめ痛切に
 一般國民に不安の念をよ、事業資金とあるべき者
 が銀行不信用の爲に之を引出し各自に現金を死蔵
 するに至る

畢竟餅をふくむるべからず 銀行家を一心不乱
 に銀行業専門高工業家と爲し専門的農家と絶
 也田畑にいそしみ貯蓄をいつ迄も専業軍人
 陛下の軍人か役人もお役人の一本槍に終始して
 らいたい代議士は眞の國士であり連中が運劫屋
 の金着板を掲げてコンミツシ系にあられても汗水流
 して眞面目に働き税金を納める女父の我々國民おそ
 實にたまつた事のか

銀行家が八百屋や千手觀音様の
 やうにいろくに手を出され甚だ
 しきま高倉某のやうか相場師が

(拾二行)

銀行屋の仮面を被ぶつてやり
て此社會またちまた暗黒と
なれども此大禁物であ
る
今の銀行家も實に不忠實不
品のすき者か往々ある一
殊に
関西方面に多い一が爲に
大山師
大相場師の石井某の如き
横着者
にうまくと偽購され我全
融界を
其水が爲に大波瀾を惹起
したは
實に最近の事實である
歐米の銀行家之を見ていか

に感ぜしや

八、暴利屋大トラスト會社の征伐

附言

政府關係(半官)の銀行會社等に対し片時も監督眼を放してさおらぬ

(理由)

近時の大時局に就て暴利を締令が及ぶされ比較的小さい暴利者全國各地に於て四レくと制戔を加へざるに事無論異存のあるべき筈もあはれ洵に時宜に高しきたよいかとあるが我國に於て大キイトラスト會社共が社會の利益を擲に上げて自分勝手に製産制限などを公然行ふつて暴利を敢てしてゐるやうである(折換業セント業水電會社)等も類々の不景氣に増益を重ねて配當を亦るべく低くして世帯体を繕ひし尚且二三割内外の配當をして儲かりぬと見てゐる

山本新内閣諸公の駁前を之等の

(拾二行)

方面に試みられて免し海暴利を
 敢てする我國大トラスト會社屋
 の征伐を米國政府が調部的に時
 々やるやうにドシドシやつても
 りつて我日本が世界列國に比較
 して高い物價を適市に下げて國
 民の生活費をある程度迄低下さ
 せてもらふむ工賃も安くふらむ
 勢ひ輸出貿易も熾んにふりう歳
 賊より我輩を日本。實業家で
 紳士也と言ふ面を被つて白唇社
 會を自働車で横行してゐる暴利

屋の大賤のやうな奴考を常に嚴
 重に取締つてもらいたい。小暴利
 屋共よりも實に大の方が我社會
 政策の利害に最も大關係があつ
 て洵に緊要な大問題である。山本
 内閣にして創めて去の勇断が出
 來得るものかと思ふ。

但し充分實地に就き調査をせ
 れた上で

九、政府及民間諸會社の経営に係
 る鉄道電車流転考の運賃も五
 十年前或全時代までに度々引

十、
 上げられて歐米に比例し随分
 高い如うに思ふが是も此際
 充分に調査されて果して高く
 過ぎるに引下げられたし
 煙草専賣おとも酒と考へて實
 に有害無益の贅品にして我
 國民の健康に害毒をよゝ社會
 にも間接的損害を年々醸しつ
 るあり大段に於ける彼の林立
 せる工場煙筒より起る出火の
 数と煙草の吸売の放棄より起
 る出火の数とは孰んど同率で

あると聞く之考も酒と考し之
 禁止的に賣價を高くして我國
 民の保健と安全を固つてもら
 いたい

まして夫れ國難の時に大切なお金を有害無益の

ものに我國民がブク煙りにする程ふ秋ひあ

学校などの出火の原因と未青

年の学生が煙草の吸売放棄上

り起る事多しと聞く

我政府が民業の暴利を不締る前

に政府自から直営のある事業が

暴利にあつてゐるか否を調査し

若しおつこめらるゝ水む煮に引下
 げを對行して艾艱を示して而し
 て民間の事業を充分に所繕つて
 与らむといと民業より御手許拜
 見と出されては折角山本内閣が
 ら出た不締会かその權威が失せ
 て役に立たぬ事と、亦らん

十一、六の前代未開の大震災を記念
 に我國民に勸債貯蓄の美風を
 絶對的に奨励しおれが為ニ特
 設機關を速に設けられたし
 終に臨み先づ畏くも

我御帝室の御安泰を謹て奉祈り我帝
 都たる東京市はじめ横濱又他罹災地
 の住民が一日も早く安定し此機会に
 於て我帝都に永久的の大計を樹てり
 れ他日大に復興とふり去の禍にて轉
 して福とふらん事を希ふ
 山本総理大臣閣下をはじめ閣下并に
 閣員諸公の御健康を實に國家の爲に
 祈り就任以來日夜の御尽力を感謝す
 ぬこの際文飾を省き欠礼不肖態
 八加草稿の儀を閣下の座右に供す幸
 に御覽の榮を賜えらん事を茲に謹

正
照
頼
寸

大正十三年十月三十日

大分縣別府町民

油屋熊八



敬
白

海軍大臣賤部彪閣下